



Report 3 秋の収穫が待ち遠しい 総領保育所が田植え体験

総領保育所の園児が行う毎年恒例の田植え体験が5月13日、近所の山根保則さんの田んぼを借りて行われました。

汗ばむほどの快晴に恵まれたこの日、園児たち28人は地域の方や先生に手を引かれて恐る恐る田んぼに入るも、「カエルがおるー」「水が冷たい」とすぐに大はしゃぎ。地域の方から苗の植え方を教わり、4アールほどの田んぼを約2時間かけて交代しながら植えていきました。

秋の収穫期には刈り取り作業も体験する予定です。



▲地域の人から教わりながら苗を植える園児

Report 4 伝統の農法を後世へ 雨の中、作業田植え体験



▲田植え唄に合わせて植えていく児童

比和小学校の田植え体験授業が5月10日行われ、5・6年生16人が参加しました。

この日はあいにくの雨模様の中、地元の方から提供された約2アールの田んぼ「比和っ子田」で田植えが行われ、比和地域に伝わる伝統の「作業田植え」を体験。予想以上に冷たい田んぼに苦戦しながらも、比和郷土芸能振興会の「田植え唄」のリズムに合わせて苗を植えていき、30分後にはきれいな苗の列が並びました。

作業田植えを終えた児童たちは「いつ頃から作業田植えは行われているんですか」など、郷土芸能振興会や地元老人会の皆さんに疑問をぶつけていました。

比和小学校では、これから秋の刈り取りまで稲の成長を観察していきます。

Report 5 手植えで深まる地域の絆 古代米の手植え

「神話の里」くまの自治会が主催する古代米の田植えが5月19日、西城町熊野で行われ、地域住民約30人が参加しました。

当日はあいにくの雨でしたが、参加者は横一列に並び、田植え綱の小さなこぶを目印に、太鼓の拍子に合わせて田植え唄を歌ったり笑い話をしたりとにぎやかに田植えを進めていました。約8アールの田んぼに苗箱18箱分の苗がきれいに植えられました。

参加者は「手植えはしんどいが、地域の人が集まってにぎやかに過ごせる貴重な機会」と話していました。

秋に収穫された古代米は、押し花を挟んだ「押し花せんべい」として、食彩館しょうばらゆめさくらや道の駅たかので販売される予定です。



▲太鼓の拍子に合わせて田植え作業

市内のイベントやまちの話題をお届けします。
身近でホットな情報をお寄せください。
情報政策課広報広聴係
☎ 0824-73-1159 / Fax0824-72-3322

Report 1 花と植物で暮らしに彩りを 花講座「花くらぶ」開催

西城自治振興区が主催する「花くらぶ」が5月16日、西城自治振興センターで開催されました。



▲楽しく寄せ植えを学ぶ参加者

この講座は、講師にしょうばら花会議副理事長の齋木義伸さんを迎えて全6回で行われます。

第1回目は24人が参加し、「初夏の花を寄せ植え」というテーマでプランターに寄せ植えを行いました。

直径40～50センチの丸いプランターにペゴニアやペチュニアなどポピュラーな花から、ジブラジニアやシューケラといった珍しい初夏の花約200株が用意され、1人7株ずつ選び植えていきます。

齋木さんは一つ一つの花の特徴や栽培のポイントなどを、ユーモアを交えながら紹介。さまざまな組み合わせを示しながら、「寄せ植えは、株の高さや配色、株の置き方によって印象ががらりと変わる」と寄せ植えの魅力を語っていました。

参加者は「家では我流でしていたが、先生の話聞いて改善点がたくさんあった。楽しく学ぶことができうれしい」と話していました。

Report 2 交通事故防止は普段の心掛けから 各所で春の交通安全運動実施

春の全国交通安全運動の一環として「ハンドルキーパー運動推進隊出動式」が4月8日、市役所市民ひろばで行われました。

同推進隊は悲惨な事故を引き起こす悪質な飲酒運転の根絶を目指し、庄原地区交通安全協会のメンバーを中心に16班48人で結成。

あいさつで庄原警察署の上堀次徳署長は「庄原市は飲酒運転の発生率が高く、飲酒運転を『しない・させない・許さない』という強い意識で取り組んでいく必要がある」と力を込めていました。

出動式終了後は市役所周辺の飲食店を訪問し、飲酒



▲ハンドルキーパー運動推進隊出動！



▲東城保育所年長園児が元気に「エイ・ヤー・サー」踊り

運転根絶への協力を呼びかけました。

訪問を受けた飲食店の店主は「お客さんに改めて協力をお願いし、より一層飲酒運転をなくす努力をしていきたい」と話していました。

また、4月9日には東城支所前で春の全国交通安全運動東城大会の出発式があり、交通安全パレードなどが行われました。

町内2カ所に設置されたテント村では、交通安全協会の会員が通行するドライバーに3色の信号餅とタオルを配布し、安全運転を呼びかけました。

ドライバーは「速度を出し過ぎないよう安全運転を心掛けていきたい」と話していました。



Report 9 白球で地域交流を深める 地域ふれあいソフトボールナイターリーグ戦開幕

毎年恒例の地域ふれあいソフトボールナイターリーグ戦が5月20日、高野スポーツ広場で開幕しました。自治会ごとのチーム編成で行われるこの大会に、今年は12チームが参加。

この日は開会式に続いてリーグ戦2試合が行われ、日ごろの運動不足で珍プレーが続出する中、親子参加で息の合った好プレーもあり、笑いとお声援が響いていました。

4ブロックに分かれて行うリーグ戦、勝ち上がりチームによる決勝トーナメントと続き、6月17日に予定される決勝戦まで約1ヵ月にわたって熱い戦いが繰り広げられます。



▲地域、世代を超えて交流

Report 10 食事提供で高齢者を安否確認 口和地域で配食サービス開始



▲利用者に弁当を手渡すメンバー

3年目を迎えた口和自治振興区の「配食サービス事業」では、新たに専門部（配食サービス部）を立ち上げ、今年も4月からスタートしました。

この事業は、自宅で生活して

いる高齢者の方に栄養バランスのとれた食事を提供し、日常の安否を確認することで、地域内での見守り活動を推進するのが目的です。

対象は、口和町内に住んでいる、家庭で調理困難な65歳以上の一人暮らしおよび二世帯、70歳以上の高齢者世帯。年8回、毎月第3水曜日（6～9月は休止）に配食サービス部のメンバーが旬の食材や地元の素材を使ったメニューを作り、環境福祉部が申し込みのあった44世帯55人に1回500円で弁当を配送しています。

利用者からは「おいしい弁当を届けてもらってうれしい」と好評です。

Report 11 日本の伝統文化を体感 備北丘陵公園で「古代たたら鉄づくり体験」

国営備北丘陵公園が主催する「古代たたら鉄づくり体験」が5月11日～12日にかけて行われ、約80人の参加者が、たたら鉄づくりを体験しました。

「たたら」とは、粘土で築いた炉に砂鉄と木炭を挿入し、「ふいご」と呼ばれる装置で風を送り木炭を燃焼させて溶かし、極めて純度の高い鉄類を生産する日本古来の製鉄技術をいいます。

参加者は、「村下」と呼ばれるたたら作業技術責任者木原明さんの指導の下、慣れない作業に四苦八苦しながらもたたらで栄えた中国山地の伝統文化を感じていました。

2日間にわたり昼夜続けての作業で、睡眠不足の人もいましたが、「最後の鉄を取り出す瞬間には疲れも吹き飛ばす達成感があった」と充実感に浸っていました。



▲火を絶やさぬよう一晩中見守る

Report 6 観光シーズン幕開けを祝う 帝釈峡湖水開き

帝釈峡の観光シーズンの幕開けを告げる「第46回帝釈峡湖水開き」が4月29日、神龍湖で開催され、約4,000人の観光客でにぎわいました。

メイン会場の「トレイルセンターしんりゅう湖」前広場で、帝釈峡の安全と繁栄を祈願する神事が行われた後、特設ステージで地元鬼神太鼓の演奏や子ども神楽の演舞などが上演。テント広場「神石高原マルシェ」には地元の食材を使った創作グルメが味わえる店が並び、観光客を楽しませました。

また、今年は「帝釈峡満喫！体験ラリー」が初めて開催。参加者は、新緑に彩られた遊歩道を散策しながら、雄橋や白雲洞など6ヵ所に設けられたチェックポイントでスタンプを集めて回りました。6ヵ所すべてでスタンプを集めると豪華商品が抽選で当たるとあって、多くの家族連れなどが挑戦していました。セグウェイ

やカヤック、木登りなども体験でき、訪れた人は丸一日帝釈峡を満喫していました。



▲多くの人でにぎわう会場

Report 7 釜峰山がまるごと教材 口北小学校が森林教室



▲散策しながらいろんな樹木を学ぶ児童

山と森の大切さを学ぶ森林教室が5月2日、口和町湯木の釜峰山森林浴公園で開催され、口北小学校の児童34人が参加しました。

まず、講師の広島北部森林管理署の方が、釜峰山の動植物や森の保水作用などを紙芝居やクイズを使って説明。森林の大切さを楽しく学びました。

その後、釜峰山展望台まで登山。道中は、同管理署とびほく・森のサポーターズの方と一緒に、樹齢120年のアベマキを見学したり、次々と出会ういろいろな樹木を学んだりしながら、約1時間かけて元気いっぱいに登りました。

展望台に到着後、児童会長の桑野大雪山くん（6年）が「この遠足で学んだことを学習に生かしたいと思います」とお礼を述べました。

Report 8 日常を忘れ春山登山を満喫 福田頭山開き

登山者の一年間の山の安全を願う福田頭山開きが4月27日、比和総合運動公園で行われ、登山客など約80人が参加しました。

福田頭は標高1,252メートル、樹齢200年～300年の巨木など手付かずの自然が残る山で、年間を通して登頂でき、四季折々の景色が楽しめる山として、登山客にも人気があります。

この日は登山客の安全を祈願する神事が行われた後、福田頭に詳しい地元の木元勲さんの同行の下、登頂開始。登山路の途中には、「一ノ滝」、「二ノ滝」、「三ノ滝」、広大なブナ樹林などさまざまな見どころがあり、登山者は「自然がきれいで日頃の悩みを忘れられる」と、すっかり魅了されていました。



▲滝の前で休憩する登山者